

清水谷しょうずだにの「弘法の井」と「小鍛冶こかじ(刀工)」伝説

上野西町の西端と上野福居町との境辺りから西へ延びる清水谷の出口付近(名張街道西側)に、その昔、空海の導きによって湧き出したとされる井戸があります。

菊岡如幻きよがみの「茅栗草子しほぐりぞうし」(1682年刊)・「伊水温故いすいうんこ」(1687年刊)には、「平安時代、京都の刀工三条小鍛冶宗近さんじょうこかじむねちかが伊賀の清水に渡り住み、伊賀小鍛冶となり、井水を用いて刀剣造りを営んだ」とあります。この「宗近」とは日本古刀界の第一人者で、代表作には国宝「三日月宗近こぎつねまる」・「小狐丸こぎつねまる」・「祇園祭長刀鉾の鉾先(長刀)」等があります。(他に伝弁慶の長刀・義経の刀等) 加えて「三国地志」(1763年、藤堂元甫・元福共著もととみ)には「三条宗近が島ヶ原で生まれ音羽にも住す」とあり、「本朝鍛冶考」(1796年、鎌田魚妙著)では「1300年代に宗近やその子が音羽に住した」ともあります。

果して、これらの叙述を繋ぎ合わせると、一体どのような史実が現れるのでしょうか。現在、上野城天守閣には「伊賀國宗近(音羽住)」銘の脇差(三重県指定文化財・1504年作)が展示されています。

また井戸の周辺には、「山神」や「蔵王権現」・「牛頭天王」を祀る石碑や石灯籠・お地蔵さん等があります。さらに西側には「大師堂」が建てられていて、戦前の大正・昭和の頃には、上野のあちこちで講が作られ盛大にお祀りされていました。今では地域の数人でお堂と「弘法の井」を守り継いでいます。

出展・参考資料 「伊水温故」「弘法大師堂縁起」「祇園祭大展」

協力 (公財)伊賀文化産業協会 島ヶ原 音羽のみなさん



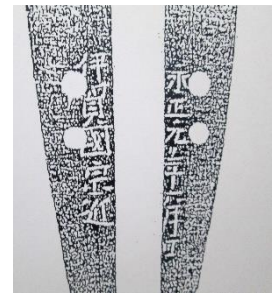
「弘法の井」



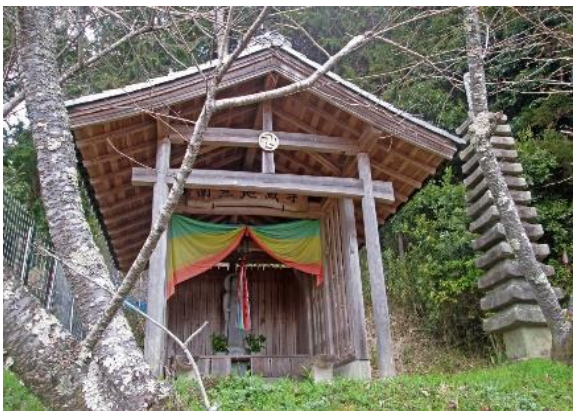
大師堂



脇差（上野城展示物）
刃の長さ33.0m 反り0.8cm
一部空の色が映っています



「宗近」銘



「宗近」住居跡(伝)お地蔵さん
（島ヶ原）



「宗近」住居跡(伝)お地蔵さん
（音羽）